



ことば



「ことば」の教室だより

だんだん蒸し暑い日が多くなってきました。体力テストやプール水泳と、体育的な行事の多い6月ですが、暑い中、みんな元気にことばの教室に通ってきています。短い時間ですが、体を動かす時間を楽しみにしている姿、「あのね、先生。」といっぱい話をする姿、「ちょっとこの発音と言えるようになってきた。」と嬉しそうにする姿、「この文をもっと早いリズムでよむぞ。」とやる気をもって取り組む姿など、子ども達の笑顔ややる気は、わたし自身のやる気にもつながっています。子どもたちが一人ひとり、めあてをもってがんばっています。

6月より、「ことばの教室」に2名の児童が加わりました。総数13名となります。1学期も終盤となってきました。早いもので、1学期も1か月とちょっとです。残りの1か月も元気に笑顔で通級してほしいと思います。



ことばの発達は、まずは、体づくりから(▽)

「ことばの教室」は、発音をよりよくしたり、自分の「ことば」について考えたりする場所ですが、「体を動かす時間」も大切にしています。また、それを楽しみに来ている子も多くいます。トランポリンやゆらゆら橋、バランスボール、ボール運動、輪投げや的当てなど、いろいろな体の動きを刺激していくことが、ことばの発達において大切になってきます。また、体づくりなどの遊びの中で、日常の会話を引き出しながら、発音の状態、コミュニケーションの状態の確認にもなっています。「きょうはどんな運動したの?」とご家庭での会話のきっかけにしてもらえたらと思います。

担任の先生と懇談をお願いします。



夏季休業中に在籍校の担任の先生と懇談をしたいと思います。日頃の学校でのお子さんの様子やことばの教室での様子を交流しあい、今後の指導に生かしたいと考えています。別紙にて、担任の先生のご希望の日時を聞かせていただき、調整をさせていただきたいと思います。お忙しいとは思いますが、よろしく願いいたします。また、保護者の方との懇談は随時取らせていただきます。ご希望がありましたら、お申し出ください。（本校児童については、個別懇談会と合わせてさせていただきます。）

担任の先生への往復封筒に、「ことばの教室だより（6月）」「通級児童に関わる懇談会の実施についてのお願い」「個別の指導計画」を入れています。読んでいただき、わからない点などありましたら、お知らせ下さい。また、個別の指導計画ファイルに綴じておいてください。個別の指導計画については、保護者の方へもお渡しします。3者が共通理解を図り、指導、支援をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

吃音について知ろう！

参考文献：医学博士 菊池 良和著

『子どもの吃音ママ応援BOOK』

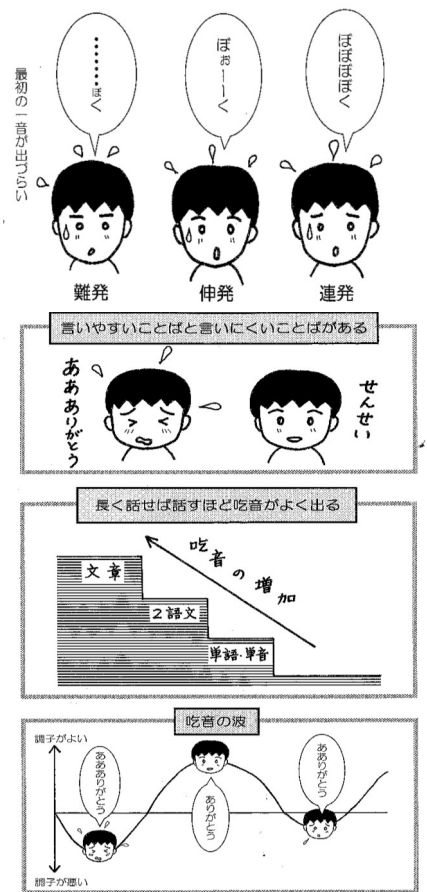
今回は、「吃音」について、知っていただきたいと思えます。吃音は、ことばが滑らかに出てこなくて、つまってしまう状態のことです。主な症状として、ことばがつまる「**難発**」、ことばの引きのばし「**伸発**」、ことばの繰り返す「**連発**」といった3つの症状があります。難発に伴って、顔や口に力が入り、手足でタイミングをとる**随伴症状**が現れることがあります。個によって違いがありますが、

- ① 言いやすい言葉と言にくい言葉がある。
- ② 長く話せば話すほど、吃音がよく出る。
- ③ 調子が良いときと悪い時の波がある。
- ④ 歌であると吃音が出ない。一緒に同じ言葉を言うと吃音はでない。

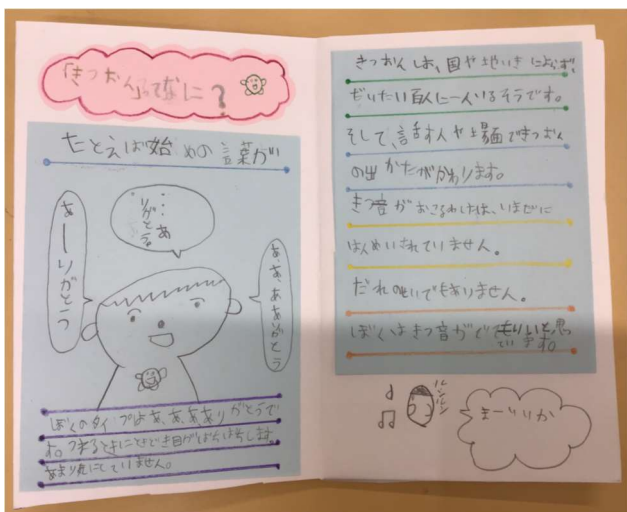
といった特徴があるのが吃音です、いまだ説明されていないことも多いですが、言えることは、だれのせいでもないということです。お家でよく吃音が出るのだとしたら、きっとご家庭で話したいことがたくさんあって、頭の中がことばでいっぱいだからと思われれます。

対応のポイント

- * 最後まで聞く雰囲気をつくること（笑う・真似をする、指摘をするは絶対NG）
- * 「もっとゆっくり」「落ち着いて」といった話し方のアドバイスやことばの先取りは逆効果
- * 話の内容に注目して聞いてください。
- * 発表、音読、集会発表の対応では、事前にどうすればいいか先生と相談できるようお願いします。



周囲が吃音のことを理解し、聞き手が変わることで、吃音は、軽減されます。ことばの教室では、吃音のある子どもに関わる目標として、「話す意欲を低下させない」「吃音があってもなくても自分は自分でいいんだ（自己肯定感）」と思えることを目標にしています。



自分の吃音のことを周囲の人に知ってほしいと発信する子もいます。吃音のことは、あまり聞いてもらいたくない、みんなと同じようにしてもらいたいという子もいます。話す時の調子がどうかと聞いてもらおうと安心するという子もいます。子どもの思いは、それぞれ違います。連携をし、相談できる環境を整えていきたいと思えます。左の写真は、児童が作成した「自分のことば図鑑」の「吃音ってなあに」のページです。自分なりに自分のことばについてまとめています。